



▲「第1回子供海外派遣研修」で派遣した中学生（左・サンノゼグループ、右・サンホセグループ）

## 創立10周年にあたり

## ～更なる国際化の推進に向けて～

会長 小坂 淳夫

会員の皆様におかれましては、平素から当協議会の活動に対しまして、格別の御理解と御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

先般の阪神大震災におきまして、被災されました皆様方に、心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、本年当協議会は創立10周年を迎える事になりました。本協議会の歴史は昭和32年3月に設立された「岡山サンノゼ盟友都市協議会」を、「岡山国際盟友都市協議会」と改称し、更に昭和57年8月設立された「岡山市洛陽市友好都市推進協議会」を、昭和60年4月発展的に改組し、『岡山市国際交流協

議会』として誕生し、現在に至っております。

その後、岡山市では外国人登録人口が6,000人を越え、人口の1%を上回っております。中でも近年留学生の増加は目覚ましいものがございます。

国際交流から異文化理解そして国際協力と、多様化する国際化のニーズに対応するため、当協議会の役割はますます重要になっております。

このため、当協議会では「友好交流サロン」を核として、岡山市と相互に協力しながら、草の根の交流活動を積極的に推進して参りたいと存じますので、会員の皆様方の一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 姉妹都市

# サンノゼ市・サンホセ市へ研修生派遣(消防分野)

6月21日～7月18日まで、岡山市中消防署警防第2係主任富田友二氏を、緊急時の災害対策を学ぶため、サンノゼ市とサンホセ市へ派遣しました。

サンホセ市へ研修生を派遣するのは初めてであり、両市との交流を大いに深めることができました。

## サンノゼ・サンホセ消防研修に参加して

岡山市中消防署 富田 友二

先ず、専門家研修としてサンノゼ市の防災施設を訪問し一番驚いたのは、市の防災対策本部室が準備の整った状態で直ぐ使えるように設けられていることでした。ここには市内の消防、警察、水道、ガス、電気の管理者が地震洪水などの大災害時に、即座に1箇所に集まれるよう用意され、都市の維持に必要な緊急対策システムが常にストックされています。だから、食料、衣料、住宅調達係はもちろん、救急医療機関、財政のトップ指揮者が直ぐ会議をこの場所で持てるのです。さらにアマチュア無線者は、ボランティアとして登録され緊急通信のため施設の通信設備を利用して、細かい情報を得る役割も決まっています。阪神大震災では我々は生まれて初めて震災の恐怖を痛感しましたが、もし、このような設備が整っていたら、或いは犠牲者が減っていたかもしれないと悔やまれます。カリフォルニア断層の走る

ロス、サンフランシスコ、サンノゼ等ではいつ地震が起こるか分かりません。その上に住んでいる彼らが災害対策に万全なのは当然の事なのでしょう。また、緊急業務は民間経営であり、素晴らしい宇宙ステーションのような、衛星通信を利用した車両表示システムは岡山市の未来の消防通信像を思わせてくれました。

サンホセ市にも、専門家サンノゼ消防職員3名と同行したのですが、たまたま、サンホセ市消防長の交替の機会を得て、就任祝いの贈り物が出来たことは幸運でした。

私は、この研修で、世界に同じ目的のために頑張っている仲間と特別な友人となれ、非常に心強い、得がたいものを得た気がします。また、消防という職業に就けて、「本当に良かった、もっと頑張ろう！」という意欲が湧いてきたのも事実です。



▲ 6月15日  
市長へのお別れあいさつ



▲ 7月5日  
(写真左から2番目)

# サンノゼ市へ ～専門家相互派遣(消防・医療・造園)～

ジム・マクルーアー消防司令が、10月18日、東京都で開催された国際消防会議参加のため来日されました。岡山市へは、平成6年6月にサンノゼ市・サンホセ市へ岡山市消防局・富田友二消防司令補を派遣した答礼として、10月10日から17日まで滞在し、岡山市消防局等を視察されました。



▲10月14日 市長表敬



▲日本赤十字社大阪府支部の前で

2月24日から3月16日まで、看護婦ジーン・トヤマ氏(「看護婦派遣協会(VNA)医療センター」勤務)が来岡されました。市内にホームステイし、岡山赤十字病院などを中心に、日本の看護制度等について、研修・視察を行いました。又、サンノゼ市の各種ボランティア団体からの阪神大震災義援金目録(100万円相当額)を神戸日本赤十字兵庫分室へ持参されました。

サンノゼ市で開催された「カリフォルニア州公共公園会議」へ、3月2日～3月10日まで国際交流協議会理事谷義仁氏を派遣し、「岡山ブース」で岡山の公園について写真により説明し、好評であり交流を深めることができました。



▲目録を神戸日本赤十字分室で贈呈する  
ジーン・トヤマ氏



▲日赤病院にて



# 子供海外派遣研修



国際家族年記念事業として計画された『岡山市子供海外派遣事業』。市内の中学校に呼び掛け、中学3年生16人を7月20日～28日まで、姉妹都市であるアメリカ合衆国サンノゼ市に8名（引率者2名）、コスタリカ共和国サンホセ市に8名（引率者2名）派遣しました。

サンノゼグループは、市役所、日本友情庭園、博物館等を訪問。サンホセグループは、市役所、日本人学校、コスタリカ・コココーラ工場等を訪問。両グループとも一般家庭にホームステイし、外国での日常生活を直に体験しました。



▲研修風景

## 岡山市子供海外派遣事業引率を終えて (サンノゼグループ)



岡山市立操南中学校教諭  
山際 由佳

わずか9日間の研修でしたが1日1日がずいぶん長く、充実していました。出発前と、帰国後では生徒たちの表情にも何かしら自信があふれ、いきいきとしているように見えました。ご報告したいことはたくさんあるのですが、1つだけ例を挙げてここに紹介いたしましょう。

アメリカではレストラン等で外食をするとき、最初、必ず飲み物の注文に来ます。何でもいからみんなと同じ物でいい、というのは通用しません。ウェーターは1人1人で注文を取って回ります。まさに個を大切にする国柄です。言うまでもなくアメリカは多民族国家。自分の隣の人が、自分と同じ髪の毛の色や肌の色や考え方をしているとは限りません。1人1人にしつこいくらい飲み物の注文を訊いて回るのは1例ですが、それぞれの人間の違いをとっても尊重するのです。ともすれば、何もかも人と同じであることがよいとされる日本ですが、そもそも人間は1人1人違ってきます。違っていいことを大切に、違っていいことを認めあう姿勢こそが何よりも国際化の第1歩だと感じました。

サンノゼ市で見つけた観光パンフレットに Experience!（「体験しよう」）と書いてありました。生徒たちのこの夏の研修が、真の国際人として育ってゆく上で大きな体験であったと確信しています。

## 子供海外派遣事業を終えて (サンホセグループ)



岡山市立京山中学校教諭  
石井 敬史

日本の四国と九州を合わせた国土に、約300万人の国民が生活しているコスタリカ共和国。首都サンホセは、海拔1000mという高地条件もあり、最高気温が25℃前後で湿度も低く、大変のぎやすい快適な国である。出会った方々は非常に陽気で親切であった。4日間で訪問・観光したのは、日本人学校、日本大使館、現地私立中学校、イラズ火山、ハコビーナ海水浴場、国立博物館、バナナプランテーション農場、国立農学大学などである。

ホストファミリーの家は、想像していた以上に大邸宅で、中にはメイドさんがいる豪邸もあった。ただ、近くの川岸のバラックの家並をみると、貧富の差がかなりあるような印象も受けた。窓という窓、戸という戸はすべて鉄格子がはめられており、日本人のイメージでの「安全な国」とはすこし違うような感じがした。また、私がよく話をした中2くらいの現地の男の子が積極的にどんどん英語で観光地の説明をし、手伝いなどを自分からすすんでやっているのを見ると、確かに日本は豊かで便利になったが、失ったものも多いような気がしてきた。しかし、安全性・便利さを考えると、私はやっぱり日本が好きだ。先日、お礼の手紙を家族の写真とともに送り、その中にも書いたのだが、「日本人はもっときちんとした自分さえ持てば、きっと素晴らしい世界人になる」と思った。また、「そういう人間を育てるためにわれわれ教師は頑張っているんだ」とも手紙に書いた。

我々日本人は、大人はやや短気で仕事に忙しく、子供はややわがままで勉強に忙しく、一見 shy で真面目な反面、まだまだ周りの人に認められる本当のマナーや個性をもっていない。そんな感動と発見と反省をお土産に持ち帰ったような9日間であった。

## 第1回

# アジア留学生来岡 〈フィリピン〉 〈シンガポール〉

アジアの国々の協調と友好関係を深めるため、今年度からアジア留学生受入れ事業を開始し、9月28日から1年間、2名の留学生を受入れ、ノートルダム清心女子大学（イメルダ・ウルビストンドさん〈フィリピン〉）、岡山大学大学院（コー・フィーキャンさん〈シンガポール〉）で熱心に研修をしています。

## イメルダ・ウルビストンド

岡山市一故郷

岡山市にお招きいただき大変嬉しく思います。岡山市は、産業が発展しているにもかかわらず、未だに美しい自然が多く残っています。山には木が生い茂り、庭には花が咲き誇り、きれいな水が川を流れ、鳥が飛び交いながら「こんにちは」と挨拶してくれます。全ての物、生き物が共存し価値ある生活を送っています。私のような外国人がこの町に滞在できる事は、素晴らしい思い出をつくる機会をたくさん持てるという事です。

なぜ岡山が故郷かという、市民、環境、市政、ここにある全てのものは美しく、平和的だからです。また、統一・調和・繁栄の精神があります。それに、市民の方々の家の周りを草花が飾っているのを拝見するとどれだけ自然を愛し、美を愛しているかがうかがえます。本当にきれいです！他の国なら犯罪や恥ずべき光景を街頭等で目にしますが、岡山市では見たことがありません。それどころか、若者からお年寄りまで協力してごみを分けながら掃除をしている姿には目を見張りました。

日本または日本人が、親切で、国民意識が強く、尊敬の心を持ち、忍耐強く、寛大で、勤勉で、質の高い製品を生産しているのは世界的にも有名でしょう。岡山市民もそのような国民性を持っていると言っても過言ではないでしょう。

岡山市の行政への取組み方や、市と市民が福祉や市民生活の改善のために協力している姿は大変素晴らしいと思います。岡山市やその他の機関で決められている開発・発展・援助事業、地域福祉サービス等幅広い活動は、全ての人々へいろんな面から支援の手を差し延べています。

このように今まで述べてきた全ての社会環境が、岡山市を故郷と思わせる原因になっていると思います。



## 郭 慧 娟（コー・フィー・キャン）

岡山に来て一番感じた事は、この市が国際交流の促進のためにすごく力を入れていることです。これに対してとても感心しました。

岡山市国際交流協議会の目標として「広げよう深めよう心のふれあう国境をこえた友情の輪を！！」というのがあります。これを使っても1つの短歌を作ってみると、こういうふうなものになるかもしれません。——「言葉越へ、心と心、ふれあえば、新春の風、国境なし。」

岡山に来て色々な国の人と知り合っって一番勉強になるのは、国際化の重要性かもしれません。岡山市と私の国が姉妹都市になる機会があれば、相互理解が深まるものと期待しています。私の国には協議会のような専門的な国際交流団体が無いようです。岡山市でおこなわれる「あいフェスティバル」とか日本文化紹介講座とかふれあい講演会という活動の存在は非常に意味深いものだと思います。

日本はとても文化が盛んな国で、国民が文化を大切にするのは素晴らしいと感じます。岡山といえば、美しい岡山城と後樂園を含むカルチャーゾーンが一番好きです。岡山の文化と芸術にはすごく特色があると思います。そして、熱帯の国から来た私にとって、岡山の四季折々の変化にとっても風情を感じます。

終わりに、これからも頑張っって勉強したいと思います。

## 洛陽牡丹祭参加

4月15日～25日まで開催された「洛陽牡丹祭」に出席のため、森末助役を団長とする「洛陽牡丹まつり公演訪中団」が洛陽市を訪問。団員として、若柳流日本舞踊家4名が参加し、牡丹祭にて日本舞踊を披露しました。



◀ 洛陽牡丹



## 洛陽市友好訪日団 来岡

11月19日～29日まで、「洛陽市友好訪日団」が来岡。張玉麟洛陽市副市長を団長とする一行6名は、11日間の日程で市長・議長を表敬訪問した他、県内の様々な施設・企業等を視察しました。



◀ 市長表敬訪問



▶ 交流協議



## 第5回洛陽技術研修生 帰国

韓 平

私は第5回洛陽市技術研修生として、岡山理科大学工学部電子工学科で1年間勉強してきました。塚本先生の親切な指導のもとで日本の進んだ技術を習い、そしてロボットの二足歩行の運動生成に関する研究をしました。また、この分野に関する研究論文を10月6日「知能システムシンポジウム」という計測自動制御学会で発表しました。論文が発表できたのも、先生のお陰だと深く感謝しております。

在日中、市民の皆様がとても親切に下さったお陰で、有意義な毎日を過ごすことができました。勉強と研究の合間、瀬戸大橋、大阪、京都、東京を視察し、また塚本先生にも奈良を案内していただきました。日本の美しい河川、綺麗な都市、友好的な市民の皆様のこと、いい思い出になります。

こちらには1年しかいませんでしたが、本当に日本の方は私達中国人に対して友好的です。この1年間の日本での生活は一生忘れることができません。



周恵華

私は洛陽と岡山市の友好交流技術研修生として岡山へきて1年が過ぎました。この1年間理科大学の工学部機械科での助台研究室で、助台榮一教授と橋本初次郎教授のご指導のもとにTiNi形状記憶合金のマルティサイト変態の研究をしました。電子顕微鏡等を使い、たくさん写真を撮り、計算、分析しました。

この1年間の研究、生活にあたり始終懇切丁寧なご指導を賜りました。忙しい中いろいろと名所をご案内頂き、ご自宅にもご招待いただきました助台榮一教授、橋本初次郎教授に心よりお礼を申し上げます。また、私たちの生活にあたりいろいろとお世話頂き、忙しいところを私たちを連れてあちらこちら見学させてくれた皆様に厚くお礼を申し上げます。理科大学の国際交流局の皆様、分析センターの先生方、そして、実験中ご協力頂きました助台研究室の学生の皆さんに、心よりお礼を申し上げます。

## 第6回 洛陽市技術研修生 来岡

第6回洛陽市技術研修生が10月31日に2名、2月17日に1名来岡しました。

先の2名は1年間、後の1名は半年間の研修日程でそれぞれの専門分野で頑張っています。

氏名 呉道修(ご どうしゅう)  
職業 洛陽工學院助教授  
(財務会計教学研究室主任)  
研修先 岡山大学・経済学部

氏名 陳励(ちん れい)  
職業 洛陽市人民政府外事弁公室  
日本語通訳担当  
研修先 岡山市総務局  
生活文化部国際課

氏名 黎蔚(れい い)  
職業 洛陽工學院講師  
(コンピューターセンター  
実験室主任)  
研修先 岡山理科大学・工学部



◀左から  
陳励氏、  
黎蔚氏、  
呉道修氏。

## 第2回 岡山市技術研修生 帰国

3月末「第2回岡山市技術研修生」の近藤由規さんと三上陽子さんが、中国語習得を主な目的とする1年間の研修を終え、無事帰国されました。お二人に、中国の思い出を綴っていただきました。

### 近藤 由規

7月16日期末試験終了後、43日間の「暑假」が始まった。期間中、五台山を始め西域方面まで旅行した。どれも過去数年間中国語を勉強してきた他の留学生とは違い、全くの初心者である私の会話能力を心配した中国の友人が同行してくれた。その中で鞏義市への1泊旅行は、初めて1人で行ったものである。鞏義市は洛陽市の東隣に位置し、石窟や宋陵があり、大学時代の恩師に行くことを勧められた所である。が、私のガイドブックに載っていない場所で、着いた方がいいが石窟までの行き方も分からず、地図を買うために飛び込んだ黄河賓館の売店で道順を尋ねた。そこで実家が鞏義石窟のすぐ近くだというスタッフが案内してくれることになった。帝后礼仏図のレリーフ等見応えのあるものであったが、石窟見学の帰り、彼女の家に寄ったこと一緒に食事したこと等も楽しい思い出の1つとなった。

全ての中国人がこの様に親切というわけではないことも事実だが、初対面の旅行者にも暖かく手を差し伸べてくれるのも彼らなのである。そんな中国人の一面に触れた2日間であった。



▲近藤由規さん(左)



▲三上陽子さん

### 三上 陽子

夏休み、ウルムチから蘭州へ向かう列車の中で友達になった4人の中国人とは、年も近い話も合う。硬臥の車両の消灯時間を過ぎてもおしゃべりし続けていた。ふと時計を見ると、ちょうど真夜中12時。8月3日がやってきた。8月3日——私の誕生日。しばらくして、私達5人は、深夜の列車の中を食堂車へ向かった。知り合ったばかりの外国人の私のために、誕生日会を開いてくれることになったのだ。夜が明ければ、私はみんなより一足先に下車するので時間もない。コップのかわりにどんぶりに入れたビールが、列車が揺れる度にザバツバツとこぼれて、みんなで騒いだり笑ったりした。旅行中に1人寂しく迎えるはずだった誕生日がこんなに楽しいものになるとは、想像だにできなかった。

この1年間、素晴らしい先生、素敵な友達に出会い、たくさんのことを学び、たくさんを知った。私が中国へ来て得たものは数知れない。しかし、いつも中国人に助けられ、中国人の心の優しさに触れていた。実際に体験してみなければ得ることのできない、とても貴重な収穫物である。

## 第3回 岡山市技術研修生 派遣

本年も、昨年に引き続き洛陽市へ3名の技術研修生を派遣します。1年間お元気で頑張ってください。



関西高等学校教諭  
石下 景教

私は現在、外国人就学生を支援するボランティア活動に参加しており、日頃から教え子達を活動に参加させるなど交流の推進を図っています。中国経済の発展に伴って、教育現場でも中国語学習は注目されているが、現在の入試偏重型の英語教育の轍を踏まないためにも、また21世紀を担う子供達がバランスの取れた国際的視野を培うためにも、人的な友好交流活動を教育現場で推進することは重要な意味を持つと思います。生徒たちがより積極的に活動に参加できるようパイプラインの役割を果たすなど、教師という立場から岡山市の国際交流活動に貢献したいと考えています。



岡山大学文学部  
史学科在学中  
井上 夏実

私の大学での専攻は中国史であるが、その研究を更に深めるためにも、研修期間中に洛陽での生活・語学学習・民間交流等を体験できることは大いに魅力的です。実地で中国文化に直接触れることによって、文献では伺い知ることのできない部分を学びたいと思います。また語学の向上により、大学での研究に幅を持たせることもできることでしょう。実際に友好交流に貢献できることも喜びですが、現地の人と交流ができることは、相手国を知る上で、最も効果的な手段であると考えています。



就実女子大学  
日本文学科在学中  
桑山 文華

高校時代の中国旅行で現地の人々と交流を持ったのを機に中国語の勉強を始めました。その後2回の研修旅行を通じて、中国にますます魅力を感じ、中国文化と中国語をより詳しく習得したいと考えている。表面的な知識ではなく、実際の中国人の生活に密着することで風習や文化を身近に体験し、見聞を広めてみたいです。

将来は経験を生かして、中国の文化や生活習慣などを紹介する仕事に携わり、日中友好に役立ちたいと思います。

## 第1回 プロブディフ市技術研修生 帰国

プロブディフ市からの第1回技術研修生であるロシツァ・カプリアンさんが、6ヵ月間の研修を終え5月17日に帰国されました。

滞在中は市内にホームステイされ、岡山商科大学研究員として日本の経営及びマーケティングに関する研究、その他企業視察等も行いました。



▲ホストファミリー宅で



▲企業視察



▲市長表敬訪問



# 第1回 研修生、プロブディフ市へ派遣

9月16日～12月18日まで、岡山県・岡山市体操協会所属田島恵氏をプロブディフ市へ派遣しました。田島氏は、プロブディフ市内のトラキア・スポーツ・チーム（国立スポーツ・クラブ）で、新体操のコーチとして指導法を研修されました。

## 田島 恵

ドーバル・デン（こんにちは）！！

私は、第1回岡山市技術研修生として、昨年9月16日より3ヵ月間、プロブディフ市へ新体操のコーチ研修に行って来ました。

ジュニアから選手を育成するトラキアスポーツクラブに所属しての研修でした。

トラキアスポーツクラブでは、1年間の基礎トレーニングを終了後、入学試験に合格した選手を年齢別、種目別、能力別に7つのグループに分け練習しています。コーチ陣も新体操のコーチ、バレエコーチ、ピアニストと専門分野毎の優秀なスタッフが揃っていて、基礎の体力づくりから指導しています。

ボール、ロープ、フープ、リボン、クラブの手具を持って華麗な演技をする新体操。一見華やかに見え、又簡単そうに演技を披露しているように見えますが、その陰には、毎日の基礎練習の繰り返しがあります。新体操は、身も心も美しさを追求し表現するスポーツです。新体操において、世界でトップクラスのブルガリアでの研修は、このスポーツのどこにポイントを置いて訓練するのかを身をもって学びました。日常生活においての体力づくり、新体操を心から愛し、楽しく訓練することの大切さ等です。又、日本で今まで私が体験してきた以上に基礎トレーニングの大切さを痛感いたしました。

ブルガリア語という言葉のハンディーはあったものの、観客を引き込ませる演技力を学べたことは、3ヵ月間の研修の中で感じたことの一部であり、研修生活の中で感じ学んだことは他にも数多くありました。

このような素晴らしい経験を与えて下さった皆様に心から感謝しております。



# 友 好 交 流 サ ロ ン

昨年度に引き続いて実施した語学講座は、旅行英会話とスペイン語が新たに加わり、講座も多彩になってきました。

「ふれあい講演会」は、一般市民の方に、いろいろな国の生活や文化を知ってもらうため、「日本文化紹介講座」は、外国人に、日本をより深く理解してもらうため、毎月1回実施しました。

## 日本文化紹介講座

日本文化をわかりやすく、1人ひとりに直接体験してもらいながら紹介しました。

講師はできるだけ協議会会員にお願いしています。講座はなるべく季節にちなんだものを選びましたので、12月の「餅つき」などは、マスコミにも恰好の話題を提供しました。

5月



生け花

尼寺裕子先生

こんな感じかしら？！

合気道

竹村玄山先生

けがをされるといけないので、よく見てくださいよ。

6月



9月

茶 道

佐治宗光先生

はいどうぞ。いただいてください。

折り紙

沢 まさこ先生

私のまねをして折ってみてください。

7月



書 道

木村明美先生

私たちの出来栄を見てください。あなたも挑戦してみませんか。

8月

